

ぼらっと



発行元 〒020-0541 雫石町千刈田82-2
雫石町総合福祉センター内
雫石町社会福祉協議会ボランティア活動センター
☎：692-2230 FAX：691-1140
e-mail/shizukuishi-vc@shisha.or.jp



あなたの思いがキチンと届きますように

ご存知ですか? 『支援金』と『義援金』



令和3年7月1日(木)からの大雨により、被害に遭われた方々へ心よりお見舞い申し上げます。また、1日も早い復旧が果たされることをお祈りすると同時に、被災された皆様が平穏な日々を取り戻せるよう心よりお祈り申し上げます。

平成25年8月の雫石町大雨洪水災害から今年で丸8年が経過しますが、それ以降も全国各地で災害が発生しています。

また、昨年からは、新型コロナウイルス感染症が心配されることから、都道府県を超えての現地ボランティア支援活動は困難を極めているのが現状です。

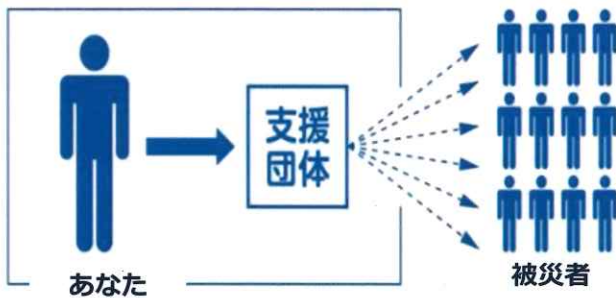
そのような中、『遠方からでもできる支援』の一つでもある『支援金と義援金』について今一度確認しましょう。

支援金とは?

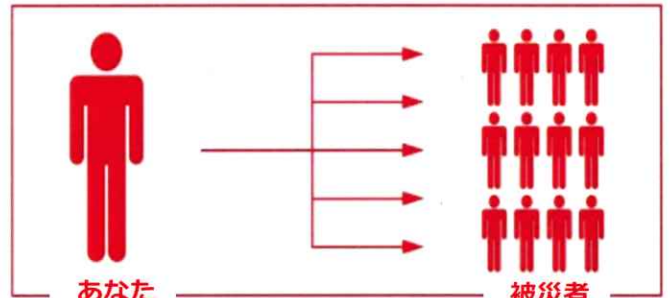
あなたが応援したい団体、関心がある分野の団体を自分で選んで寄付し、被災地の支援に役立ててもらおうお金。

義援金とは?

被災者の方々へ、お悔やみや応援の気持ちをこめて送るお金。赤十字・赤い羽根共同募金・自治体等が受付。



★支援活動する機関・団体を応援★



★被災者への直接的な支援 (見舞金など) ★

被災地での救命・復旧活動	使われる	各機関やNPO、ボランティア団体の判断により、人命救助やインフラ整備などの復旧活動に速やかに役立てられる。	被災地での救命・復旧活動	使われない	義援金は被災者に配分されるもので、ボランティア団体や行政がおこなう復興事業や緊急支援には使われない。
公平な配分	支援団体が使途を決定	支援金の使い道は支援先団体に任せることになる。各団体ごとに支援金の使途や収支の報告を行って透明性を確保している。	公平な配分	被災者へ公平に配分	被災した県が設置した義援金配分委員会によって、寄付金の100%が公平・平等に被災者に配布される。
被災地へ届くまで	すぐに届く	被災地からのニーズに対して、各機関や団体が各自の判断と責任において柔軟に使用できるのですぐに活用される。	被災地へ届くまで	時間がかかる	被災者数などの正確な情報を把握した後に均等に分配される。配布作業も混乱する被災自治体が担当するため負担が大きい

被災地への「不要不急の問合せ」はやめましょう!

報道で被災地の大変な様子を見ていると、「被災地のために何かをしたい!」という気持ちになりますよね。しかし、そのような「何かしてあげたい」という思いで被災地へ直接電話をする行為はやめましょう。やるべき事が山積みで混乱している現場(被災地)では電話の対応に人がとられると、他の支援活動をする人手が不足することになります。1本でも多くの電話が被災地の皆さんの生活再建のために使われる回線であってほしい。一人でも多くの支援者が被災地の復興のために活動できる体制であってほしい。そのように被災地へ思いを馳せる。これも一つの大切な支援ではないでしょうか。



～福祉教育出前講座～ ふくしの種をまきましょう

出前講座を実施したいけどどうしたらいいのかわからない、悩みますよね。そこで、6月8日(火)に雫石中学校3学年125名を対象に行った出前講座を参考に、依頼から当日までの流れをご紹介します♪



車いす・白杖アイマスクの出前講座を実施したいけど、、、内容とか、どうしたらいいのかな? あっ! そうだ! 社協に相談してみよう!



6月8日ですね!! 協力していただくスタッフや講師先生を探して調整を行います。また、当日に関する打ち合わせを行いたいため、学校にお伺いさせていただきますね。



申請書の提出、会場の確保、時間割の調整など



打ち合わせ

プログラムの提案・講師の斡旋、依頼など

当初キャップハンディ体験のみの実施予定でしたが、打ち合わせの中で中学生向けに実際の車いすユーザーの方からの講座を取り入れることとなりました。

開催にあたっては、コロナ感染症対策を徹底したプログラムを作成し、講座から実際に体験、最後は全体でまとめ学習を行い、生徒同士の思いを共有することとしました。完成したプログラムがこちらになります。

完成した当日のスケジュール

時間	3年1組	3年2組	3年3組	3年4組
1校時	講話			
2校時	車いす体験	白杖体験		
3校時		車いす体験	白杖体験	
4校時			車いす体験	白杖体験
5校時	白杖体験			車いす体験
6校時	ふりかえり・まとめ学習			

本番当日



『自分の好きなこと、大切にしていること、夢、目標を持ち続けてほしい』

講師 大和田 洋平 氏

ワークの中で、生徒からは「障がいのある方は不自由なイメージだったが、周りの助けがなくても一人であることが沢山あることが分かった」「障がいがあってもスポーツを楽しめる」「自分も夢を諦めずに努力すれば叶う」などの声が出ました。

障がい者への理解を深め、一人の人として触れ合い、その人を知ること大切なることに気付くとともに、自分たちの少しの気遣い、心遣いで同じように生活ができることを1日の体験を通じて学び、出前講座を終えることが出来ました。

車いすバスケットボールを体験



ワークを通じて一日の体験を振り返る生徒の様子